

サンクリニック通信

風しん流行におもうこと

○過去最高の流行ということとは？

ニュースでも騒がれていますが、昨年から増えていた風しんが、今年は過去最高の流行と言われるほどはやっているといわれています。しかし、これは少々間違いで、過去最高というのは2008年以来最高ということですが、というのも、届け出患者の報告が全数報告になったのが、2008年からだからです。全数報告というのは、その名のとおり、発生したすべての報告数です。2008年以降、医療機関で風しんという診断が下された場合、必ず届け出なければならなくなりました。それ以前は定点医療機関（地域で報告する医療機関が決まっています）からの報告だけでした。定点医療機関からの報告がほとんど0に近くなり、流行の把握が難しくなったため、全数報告になったのです。1990年代までは多い時で1週間に10人、少ない時で2、3人の定点医療機関からの報告がありました。1週間に数人でも全国レベルで推計すると10万人くらいになります。1週間で10万人です。現在の統計では今年1月から6月19日までの累計で全国10、822人ですから、1週間の報告数で考えると、



目次

- 1~3 ページ
風しん流行に
おもうこと
- 3~5 ページ
病児保育室
サンクリキッズ
はじまりました
- 5~6 ページ
くすりが
できるまで
- 6 ページ
お知らせ
編集後記

全国で600人〜800人、横浜市では30人前後ということになります。これは1医療機関1人のレベルにもならない数字です。早く言うと1990年代までは今よりもっともっと流行していたということですが、

1990年代までは風しん流行というと、幼稚園、小中学校での流行でした。現在は予防接種を1歳〜2歳未満の期間と小学校に入る前の1年間の2回接種をするので、小児の発病は少なくなりました。そのかわり、20歳代〜40歳代の罹患が8割を占めるようになり、全体の8割が男性です。50歳代以上の罹患者が少ないのは、ワクチン世代でなく、自然感染の世代だからでしょう。自然感染の時代の方々はもちろんワクチン接種をしていませんが、高い抗体を持っています。罹患者が多い地域は都市部で、東京都、大阪府、神奈川県に多いです。

○先天性風しん症候群

風しんが流行して困ることは、免疫のない妊婦がかかってしまうことです。妊娠初期の妊婦が感染すると、生まれてくる赤ちゃんが先天性風しん症候群になってしまうことがあるからです。毎年数人の発生でしたが、昨年5人、今年は6月までで6人発生しています。先天性風しん症候群の3大症状は先天性心疾患、難聴、白内障です。そのほかの症状として網膜症、肝脾腫、血小板減少症、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅延、小眼球などがあります。先天性風しん症候群になる危険性は罹患する月数が、妊娠1か月

で50%、2か月35%、3か月18%、4か月8%程度です。

○緊急風しん対策

緊急の風しん対策として横浜市では、今年4月22日から9月30日まで、妊娠を希望している女性と妊娠している女性の夫(婚姻関係の有無を問わない)を対象に、麻しん風しんワクチン(MRワクチン)の費用を助成する(自己負担3000円)ことになっています。

○ワクチン不足

厚生労働省でも、風しんに罹患している方の多くが、20歳代から40歳代の、赤ちゃんを産み育てる世代であることから、これまでワクチン接種していない方に接種を呼びかけています。マスコミや地域でも盛んにワクチン接種を呼びかけています。そのせいもあってこの調子でワクチンを接種する方が増えると8月にはワクチン不足になるのだそうです。

○風しん抗体があるか確認してください

まず、今後妊娠する可能性がある女性ですが、第2子以降の妊娠を希望している方は、第1子妊娠中に風しん抗体価は多くの産婦人科で検査をしています。その時に風しん抗体が低いという説明を受けていない方は多分抗体がある方だと思えます。妊娠初期にもらった検査結果を確認してみましょう。検査結果をなくされた方は医療機関に確認してください。また、1990年代までは先にお話ししたとおり、風しんは普通にはやっています。サンククリニック開業当初(1991年)から、風しんは毎年流行していました。そのため、20歳代後半〜30歳代の方は小児期に罹患している可能性が高いです。ご両親に確認してみてください。

風しんは「三日ばしか」とも言われ、熱も38度前後、発疹も3日くらいで治ってしまう軽い病気です。記憶にない方も多いかと思えますので、血液検査で抗体価を確認しても良いと思います。

風しんワクチンは1977年から中学生女子に接種開始、1995年から12か月〜72か月男女ともに接種が始まりました。現在のように2回接種に変わったのは2005年からです。ですから、20歳代〜30歳代以上の男性、すなわち現在の赤ちゃんのお父さんに当たる方にワクチン接種をしていない方が多いのは事実でしょう。

○風しんと思われる症状のときは

もちろん、医療機関を受診し、必ず診断を受けてください。仕事を休まなければいけないほど重症になることは少なく、軽い症状のことが多いですが、会社や仕事、学校は必ず休みましょう。周りの方も休むことを受け入れてあげましょう。

2

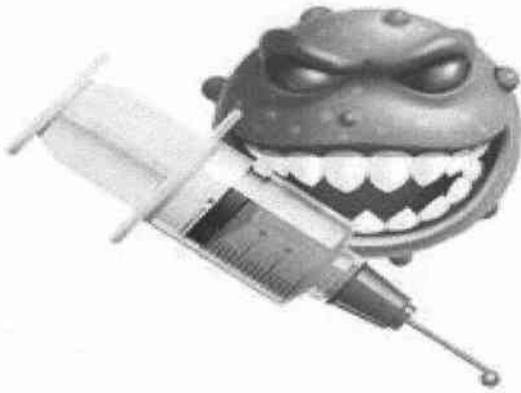
○自然感染とワクチン接種

あらゆる病気に自然にかかっていた時代は、人間の免疫がしっかりと出来上がっていました。けれども現在はワクチンで予防することが多くなってきました。自然感染して免疫を作るということが少なくなりました。ある意味、予防接種はそれなりに役割を果たし、成果を上げてきたことになるのでしょうか。世の中から病気が少なくなってもいます。ただ困ったことに、ワクチン1回のみ接種では抗体が長く維持できないという問題があります。自然界にウイルスが少しでも流行していれば、ワクチン接種に加え、感染して免疫を高める効果(ブースター効果と呼びます)もあつたはずですが、ところが、ワクチン接種だけだと複数回接種しないと抗体価を長く維持できません。それが、今後2回だけの接

種でよいのか、さらに追加接種が必要なのかどうかは、流行の仕方にもよるでしょうが、これから先の課題です。

自然感染の方が、免疫がよりしっかりつくのは当たり前ですが、自然に感染したいと思ってもできない時代になってきました。今の子どもたちが大人になるころには流行する病気も変わってくるかもしれませんし、ワクチンの質や考え方も変わってくるかもしれません。いつまでもウイルスや細菌と人間との戦いは続くのです。

(相澤 扶美子)



病児保育室 サンタリキッス はじまりました

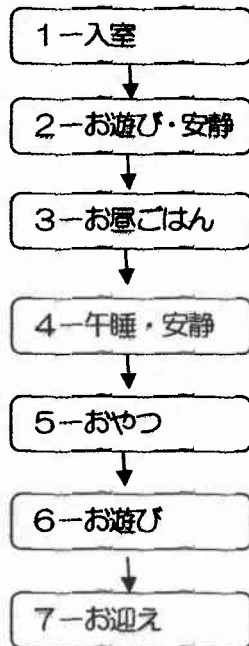
平成25年3月11日より病児保育室が開室して3か月がたちました。今回は 保育室の様子をお知らせします。

定員は1日4名です。

特に感染力の強い 麻疹(はしか)・流行性角結膜炎以外の病気なら、お預かりすることができます。



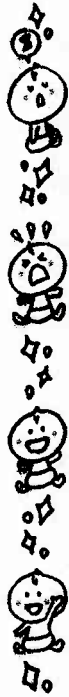
★ 保育室での1日の流れ ★



- 1 入室は8時半〜可能です。お子様の症状や様子・緊急連絡時の確認方法など詳しくお話をおうかがいします。
- 2 お子様の症状に応じて、無理のない程度に室内遊びをして過ごします。安静が必要な場合は、ゆっくり落ち着けるように配慮します。
- 3 ご持参いただいたお弁当を食べます。その時の病状に応じて食べられる分だけが無理せずいただきます。

- 4 体を横にしてゆっくり休む時間をとります。大きいお子様もこの時間は安静を保てるよう促します。
- 5 ご持参いただいたおやつをいただきます。万が一不足した場合は、保育室用意のものを提供することもできます(有料)。お子様の体に配慮した自然食品のおやつです。
- 6 病状に応じて無理のないよう過こします。
- 7 お迎えは最大5時半までにお願ひ致します。保育士・看護師よりお子様の1日の様子をお知らせし、ご家庭での看護に関してお伝えしたり、翌日の利用可否などを確認したりします。

病児保育室に来るお子様は、咳や鼻水が出てつらかったり、お熱が高くて体がだるかったり、お腹を壊していて痛かったり等、通常の健康状態ではありません。その上、いきなり知らない保育園(みたいなどころ)に連れてこられ不安でいっぱいだと思います。そしてお父さん・お母さんも、病気の我が子をおいて仕事にいかなくてはならないというのはとても心配なことであり、子どもに対して申し訳ないお気持ちでいっぱいのことでしょう。私たちはそんなご家族の気持ちを大事に受け止め、保育室での1日が少しでも病気の回復へつながるよう、また、お子様の笑顔がみられるような保育看護ができるよう、心がけています。



病気の初期からお預かりするお子様は、保育中に病状が悪化する事が多くあります。どんどん熱が高くなる、食欲がなくなってくる、発疹があらわれる等々。こちらでは、出来る限りその病状と戦っているお子様を見守り看護します。でも、これ以上はお父さんやお母さんの手助けが必要だと判断した時は、ご連絡さ

せていただきますので、その時はどうか、お勤め先のご理解をいただいでください。

「病児保育室に預けたのに呼び出し？」と思われるかもしれませんが、病児保育は1日入院ではありません。やむを得ず看病できない親御さんに代わって、病気中のお子様をお預かりし看病させていただくのが私たちの仕事です。お子様と一緒に見守って一員として、私たちの保育室をご利用いただけたら幸いです。お子様のことを相談しましょう。



また、これまで保護者の方とお話を通して、子どもをもつ女性に働いていくことは、まだまだ大変なことなだと痛感させられています。

- ・子どもの病気時に休みづらい
- ・暗に、退職をほのめかされる
- ・遅刻や早退で何とか対応するが、職場内で肩身が狭い等々

あげればまだまだたくさん、厳しい現実がみえてきます。我々もタツフも子育て経験者が多いので、働きながら家事と育児を両立していくことがどれだけ大変かは身に染みています。まさに病児保育室を利用しながら、ハラハラする日々を送ってきた現役もいます。……です。で病児保育室の利用規定が、働く親御さんにとつてまだまだ使いづらい点があることも十分承知しています。例えば時間について。朝8時半からの受付に17時半までのお迎え、これでは朝は遅刻・帰りは早退せざるを得ない方もいらっしゃるでしょう。仕事を休まないまでも、上司や同僚の印象は悪くなるという不安があるかもしれません。

それに予約システム。夜間の時間外受付は当日朝になるまで入室の可否が分かりません。翌日の段取りを何通りか準備しておかなければならないので大変ただしくなると思っています。

また、中には「必ず受診しなければ入れないのですか？」という質問もあります。朝起こしてみたら熱があった！保育園には行けない、じゃあ病児保育室へ！というわけにはいかないのですか？と。午前中受診させていたらやはり職場には遅刻して行くか休むしかないのでそれでは困る、というお話でした。

私たちも同じ働く親として、思い当たるご事情ばかりです。

しかし病気がかかってしまったお子様も、なんだか分からないけれどもいつものような調子が出ない、言葉にはできなくてぐずぐずするしかない、泣くしかない、お父さんお母さんに甘えたい・・・更に病気によつては痛かったり痒かったり苦しかったり・・・大変な思いをしています。だからこそ、私たちはそんなつらい状態のお子様を親御さんに代わつて一日お預かりし看護させていただきま。時間としては8時半から17時半までの9時間、お子様にとつてもそれが精一杯でしょう。また、病気の始まりは軽そうにみえてもその後どのように変化するか分かりません。必ず医師による正確な判断が必要です。私たちは医師の指示にのつとつてお子様の病状の変化を見守りながら、安全に看護・保育することを第一に考えています。

どうかこれらの主旨をご理解いただき、まだまだ不慣れた病児保育室ですがうまく利用してください。私たちも大変な子育て期を乗り切っていくお手伝いをさせていただければと願っております。



「くすりができるまで」

みなさんは我が国で1年間に何種類ぐらいの新しくくすりが誕生しているか、ご存知でしょうか？ 現在、我が国ではおよそ4050種類の新しくくすりが誕生しています。

新しくすりが誕生するまでには安全性や有効性について長い時間（一般には10年以上）をかけて研究開発や試験が行われています。この試験結果を国の機関（厚生労働省の中央薬事審議会）が審議し、医薬品として承認することで新しくすりが誕生します。

新しくすりの開発ってどんなことをしているの？

新しくすりができるまでには、たくさんの方が研究者たちが、それぞれ役割を担い一つチームワークを組んで活動します。

開発の方法はくすりによつてさまざまですが一般的な方法を例に見ていきましょう。

まず、病気で苦しんでいる患者さんを救いたい、そのために病気を研究し、どのようなくすりがあれば治療に役立つのか、それを作るにはどのようなタネが必要かを考え、「くすりのタネ」、つまりくすりのもととなる物質を探し出します。

くすりのタネを探す目標が決まったら、たくさんある候補の中から試験を繰り返して徐々にふさわしいタネを絞りこんでいきます。

タネの候補がある程度絞られてきたら、さまざまな分野の専門家が、安全性などの試験を行い、どのタネが優れているのか順位をつけ、各分野の順位を照合して最も優れたタネを選び出します。それをくすりとして効果が発揮できるように、その後また薬効薬理、安全性、物性（溶解性、吸収、代謝など）、薬物動態（くすり

が体の中でのように働くか)など、様々な試験の結果をもとに少しずつ改良を重ねバランスのとれた最適なものにしていき、くすりとして仕上げていきます。

多くの患者さんにくすりを届けるために、くすりの薬効成分である原薬を、くすりとして最適な形(錠剤やカプセルなど)にし、それらが安全で効果があることを分析・評価し、数年にわたり研究を重ね患者さんにお届けできるくすりに仕上げていきます。

新しいくすりが誕生するプロセス

①非臨床試験 (3~5年)

動物を対象として「くすりの候補」である物質の効果・作用、毒性など生体に対する影響について試験をします。

②治験 (臨床試験 3~7年)

動物に対する試験の結果、一定の有効性が期待でき安全性に問題がない場合、人を対象とした試験を行います。この人を対象とする試験が治験(臨床試験)と呼ばれています。

治験は次の3段階に分かれていて、それぞれの段階で有効性と安全性を確認しながら進められます。

1)第1相試験(フェーズI)

健康な成人(志願者)を対象に物質の効果、作用、安全性について試験をします。

2)第2相試験(フェーズII)

少数の患者さんを対象に、くすりとしての有効性、安全性を確認しながら使用する量、使用方法、使用期間などについて試験をします。

3)第3相試験(フェーズIII)

より多くの患者さんを対象に、くすりの有効性と安全性について(臨床試験として)最終的な試験をします。この段階でプ

ラセボ(効果のない偽薬)との比較試験を行います。

③承認審査(1~2年)

厚生労働省の中央薬事審議会において申請内容(全ての試験結果)について審議され、「医薬品」として適正と判断された場合にのみ製造販売が承認されます。

このように、新しくくすりが誕生するまでには長い歳月と莫大な費用がかかります。

そして綿密な研究や試験を行うなど、たくさんの方の過程を経てくすりは発売されますが、くすりの発売後も「より安全な使用方法の確認」「より効果的な使い方」などの調査は続きます。

実際に患者さんが使用される中で発生した「副作用」などの情報が厚生労働省に報告され、より安全な使用方法が追求されていきます。

お知らせ

8月11日より8月18日まで夏休みとさせていただきます。

8月19日(月)より内科・小児科とも通常通り診療いたします。

編集後記

3月11日より病児保育室 サンクリキッズを開室しました。始めの頃は、認知度がひくかったためか利用してくれる保護者の方もいませんでしたが、お陰様で最近では4名満員になることもめずらしくなくなりました。

今後もサンクリニック職員一同、病児保育室サンクリキッズ職員一同、皆様に愛され地域に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。